



元気UP アツプ通信

下関市長の部屋

検索

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>



中尾下関市長(左から2人目)に下関唐戸魚市場仲卸協同組合の関係者がGI登録を報告。(10月17日 下関市役所)

世界へはばたけ「下関ふく」 GI登録が決定しました



んにちは。市長の中尾友昭です。市民の皆さんにとって、「下関といえはふく」と連想するのは、そう難しくないことですね。10月12日に、下関唐戸魚市場仲卸協同組合が農林水産省に申請していた、「下関ふく」の地理的表示(GI)登録が決定しました。



縮まるなど、地域ブランドの保護というメリットもあります。理由をご存じですか。諸説ありますが、「幸福」につながる縁起が良い名前ということからも、下関ではふくと呼んでいます。

GIという言葉は、まだ日本では聞き慣れませんが、世界100カ国以上で取り入れられている仕組みです。地域で長く大切にされ、産地に根ざした特性を持つ農林水産物などについて、産地との結び付きを特定できるような名称(地理的表示)を知的財産として国に登録するものです。これまでに、「夕張メロン」や「神戸ビーフ」などの産品が登録されていますが、水産区分としての登録は、下関ふくが第1号となりました。

この登録によって、下関ふくは国のお墨付きをいただくことができ、更なるブランド力の強化が期待されます。ブランド力が強化されると、付加価値向上による取引価格の上昇や、ほかの産品との差別化といった形で目に見えた効果が期待されます。国内では、不正使用を国が取り

そのふくを、海外へも広めたいという思いは、ふくに携わる方々の長年の願いです。これまでも、アメリカやシンガポールに輸出されています。ふくの輸出については、各取引先国と取り決めを行う必要があります。一気に輸出先が増えるという訳にはいきません。今回GI登録され日本の特産品として認められたことは、今後の海外展開にも大きく寄与すると思われ、私も大変期待しています。

本市としても、重要な地域資源である下関ふくブランドの更なる発展につながるよう全力で応援していきたいと思えます。

しものせきナビ vol.73

行って! 学んで! 博物館!

下関鳥瞰図
よしだはつさぶろう
吉田初三郎筆
下関市立歴史博物館蔵

全長3層以上の画面に描かれた海峡都市。「大正の広重と呼ばれ、鳥瞰図(パノラマ地図)を得意とした吉田初三郎の作品。昭和7(1932)年の下関の都市景観がわかります。

大正中期以降、交通網の発達により観光ブームが起き、初三郎のもとには観光パンフレット用の鳥瞰図の制作依頼が殺到しました。昭和7年、岬之町の天津十九夜のおっせんで下関を訪れた初三郎は、綿密な取材のもと本図を描きます。観光パンフレットに掲載された本図は、多くの人々を下関観光にいざないました。人々は色鮮やかに描かれた本図を見て下関の名所を訪れ、さまざまに楽しんでくださいました。

市内の地名・施設が明記されていることから、本図と現在の下関の実景と比較して楽しむことができます。普段目にする下関の風景は、約80年前にはどのような風景だったのでしょか。ぜひ歴史博物館でご覧ください。

